

No.13 多発している水 - おぼれの死亡災害事例（2018年）

2018年発生月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	起因物 (小) コード	事故の型 コード	労働者規模
11	10～11	災害発生当日は被災者Aと、Bの2名での作業であり、滝の正確な高さを計測するため、Bは被災者に滝下の岩盤にポールを立ててくるよう指示し、Aは滝側面の遊歩道を通って滝下へ向かった。岩盤に到着するとAから連絡が来るようになっていたが、連絡が来なかった。Bは岩盤に行ったが、Aはいなかったため、消防に連絡し、Aを捜索したところ、岩盤より上流の窪み（深さ約1m）に沈んでいたAを発見した。	170209	713	10	1～9
11	10～11	航空基地への揚油作業（沖合200m付近のタンカーからタンクに納品。）を行うため、ゴムボートでタンカーをブイに係留する準備作業を行っていたところ、高波を受けボートが転覆し、作業員5人と自衛隊員1人が海上に投げ出されたもの。直後から被災者は意識なく、災害派遣要請により自衛隊ヘリコプターで救助、本土に搬送されるも、搬送先で死亡が確認された。	170209	713	10	10～29
9	20～21	工場で警備警報があり被災者が現場に向かったが、その後、連絡がつかなくなった。同僚警備員が現場に駆け付けたところ、被災者が運転した車両がエンジンがかかったままで本人行方不明であったため警察に通報。警察で被災者の行方を捜査していたところ、後日、現場から12キロ下流の杣川の三角州において被災者の遺体が発見されたもの	170201	713	10	10～29
	20	被災者が石炭の運搬船接岸に伴う係留作業中、ヒーブライン（補助綱）を拾おうとした際によろめいて海に転落し、5分後に陸上に引				300

8	～ 21	き揚げられたが意識がなく、その後救急搬送されたが、病院にて死亡確認されたもの。	10804	713	10	～ 499
8	8 ～ 9	被災当日は海洋土木工事に使用する潜水士船の錆落とし及び塗装作業を浮きクレーン台船上で行う予定であった。作業を行う予定であった浮きクレーン台船と、当該台船が停泊している岸壁との間の海面に被災者がうつぶせで浮遊しているのを同僚が発見し、救出した後、病院へ搬送され、入院していたが後日死亡が確認されたもの。	30111	713	10	50 ～ 99
8	8 ～ 9	停泊中のクルーザーに乗り移るために使用する手こぎボートを栈橋に備え付けるため、テーブルリフターでボートを湖面に下ろし、被災者は栈橋まで漕いでいったが、テーブルリフターの操作を終えた同僚が栈橋へ行くと、被災者の姿が見当たらなかった。湖面にボート、オール1本、被災者の靴が湖面に浮いていたため、湖を捜索したところ、30分後、ボート真下の深さ3.1mの湖底に沈んでいた被災者を発見し救出したが溺死したもの。	140101	713	10	50 ～ 99
8	16 ～ 17	海浜公園にて、被災者が引率していた労働者の内3名が海で遊んでいたが、3名の内2名が溺れたので、被災者は助けようと海に入り、溺れた労働者の元に向かった。3名の労働者の内溺れていない労働者が、溺れた1名を救出した。しかしながら、被災者は、もう1名を救出し、応援に駆けつけた他の一般客に労働者を引き渡した後海に沈み、溺死したもの。	10102	713	10	100 ～ 299
7	12 ～ 13	児童福祉施設（児童デイサービス）が恒例行事として開催したレクリエーション海水浴において、沖に流された浮き輪を泳いで取りに行った児童指導員が溺れたもの。ドクターヘリで救急搬送し救命措置を受けたが同日死亡が確認された。レクリエーション海水浴には、施設代表者と指導員が児童を引率していた。	130201	713	10	30 ～ 49
	10	河川の堤防の草刈作業中に被災者の姿が見えないため、他の労働者				1～

7	11	ら及び消防隊が搜索したところ、川の中で心肺停止の状態の被災者が 11 が見つかり、病院に搬送されたが、死亡したもの。	60101	713	10	9
7	8 ~ 9	停泊した定期船のスクリューから異音がするため、潜水作業により 状況確認を行い、状況によってはその場で修理するため、ダイバー 2名で潜水を行うことにした。被災者が先に入水し、遅れてもう一 人入水したが、水中で被災者の姿が見えないため周辺を探したが見 つからず、20分後に約10m離れた場所に浮かんでいるところを 発見されたもの。	40102	713	10	10 ~ 29
7	14 ~ 15	被災者は、生徒が海で溺れているのを発見し、助けようと海に入っ たが、溺れてしまった。被災者は、意識不明の重体で助け出された 15 が、翌日に搬送先の病院で死亡した。	120109	713	10	100 ~ 299
7	22 ~ 23	豪雨で川が増水したため、国道の通行止めを行うことになり、警備 員22名を配置した。うち、10名及び行き場を失っていた4名の 一般人は、国道上まで増水した濁流にのまれ、警備員2名が流さ 23 れ、残り12名は河川脇の竹林につかまり命は助かった。警備員2 名は遺体で発見。	170201	713	10	100 ~ 299
7	22 ~ 23	豪雨で川が増水したため、国道の通行止めを行うことになり、警備 員22名を配置した。うち、10名及び行き場を失っていた4名の 一般人は、国道上まで増水した濁流にのまれ、警備員2名が流さ 23 れ、残り12名は河川脇の竹林につかまり命は助かった。警備員2 名は遺体で発見。	170201	713	10	100 ~ 299
5	14 ~ 15	市発注の橋梁の架け替え工事において、現場代理人が被災者に休憩 の際に使用するジュースを冷やすよう依頼したのを最後に被災者が 行方不明となったもの。その後、瀬回しの終端部分にある岩の直下 15 で岩と河床の隙間に体はさまれるような状態で発見されたもの。	30105	713	10	10 ~ 29
	16	自衛隊演習場内にある「市街地訓練所」での訓練により生じた破片 の清掃や損傷した訓練施設の修繕を自衛隊の担当者の管理のもと行 16 う作業に従事。被災者らは作業車両にて市街地訓練所を出たが、集				30

3	～ 17	合場所への被災者らの戻りが遅いので同僚ら探しに行くも荒天のため被災者らの所在確認が出来なかった。捜索にあっていた自衛隊員が、演習場内の調節池で死亡している被災者2名を発見したものの。	150101	713	10	～ 49
3	～ 17	自衛隊演習場内にある「市街地訓練所」での訓練により生じた破片の清掃や損傷した訓練施設の修繕を自衛隊の担当者の管理のもと行う作業に従事。被災者らは作業車両にて市街地訓練所を出たが、合場所への被災者らの戻りが遅いので同僚ら探しに行くも荒天のため被災者らの所在確認が出来なかった。捜索にあっていた自衛隊員が、演習場内の調節池で死亡している被災者2名を発見したものの。	150101	713	10	30 ～ 49
2	8 ～ 9	ダムの利水放流設備点検用ゲート設置工事のため、潜水したところ放流管に流れ込む水に流され死亡した。	30101	713	10	1～ 9
1	10 ～ 11	旅館の敷地横にある川において、被災者の死体を同僚が発見した。	140101	713	10	100 ～ 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_07.html